

第3回東近江市政策推進懇話会 要旨

日時：平成29年2月28日（火）13:30～

場所：東近江市役所本館 302会議室

出席者：委員12名

谷口 浩志座長	中村 哲委員	下村 貴範委員	黒川 重宣委員
位田 嘉郎委員	向井 隆副座長	井上 由美委員	忝藤あさ子委員
大塚 ふさ委員	杉本 栄子委員	辻 京子委員	藤田 善久委員
(欠席：寺嶋 嘉孝委員	落部 弘紀委員	辻 英昭委員	小梶 隆司委員
山崎 亨委員	辰己はる枝委員)		

事務局7名

企画部長	南川 喜代和
企画部理事	田中 基裕
企画部理事	木村 義也
総合政策課	課長 久田 哲哉
企画課	課長 瀧澤 和久
総合政策課	参事 曾羽 道明
	主幹 古川 暁

開 会

〈事務局〉 2月18日に「まちづくりシンポジウム」を開催した。残念ながら参加者は多くはなかったが、若者からのメッセージについては概ね好評な声をいただいた。参加いただいた委員には、御礼申し上げる。

座長が都合で遅参されるため、座長不在の間、副座長の進行で進めていきたい。

〈副座長〉 谷口座長が来られるまでの間、進めさせていただく。

1 報告

(1) 第2次東近江市総合計画基本構想について

〈事務局〉 資料1（基本構想）説明

〈副座長〉 議会に提案する内容であるが、パブリックコメント等による修正の箇所を説明いただいた。ご意見があれば何う。

〈委員〉 特になし

(2) 平成29年度当初予算（案）の概要について

〈事務局〉 資料2（当初予算案の概要）説明

〈副座長〉 新聞報道でも積極的な予算とあったが、新規事業が多いように思う。議会後に「当初予算（案）の概要」を用いた説明会等の予定はあるか。

〈事務局〉 概要については、市のホームページに載せているが、外部に向けての説明会は、これまで行ってない。

なお、本資料は、予算についての議会資料及び新聞社への情報提供として作成したもの。

〈副座長〉 以前は自治会連合会などにも説明があったが、時代背景が変わった。各自治会には細かい補助対応等の情報が伝わるが、大きい視点での予算情報は少ない。自治会連合会の総会などで説明いただければありがたい。

〈事務局〉 いろいろな会議の予定があるので、その際に相談させていただく。

〈副座長〉 その他、質問、意見等があれば伺う。

〈委員〉 17ページ「活力ある農林水産業の振興」の「農林水産創造・ネットワーク事業」にフードシステム協議会を生産から販売、流通まで発展させるとあるが、消費者を巻き込める内容にしたいだけとありがたい。地産地消を進めていく上で必要である。

〈事務局〉 食育等、ソフト面の取組を教育、農林も含めて行っているの、それぞれにご意見を伝える。

(座長出席により進行を副座長と交代)

2 議題

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略について

〈事務局〉 資料3-1(総合戦略概要版)、資料3-2(総合戦略第3版)説明

〈副座長〉 「観光入込客数」の目標値が、概要版で「2,200,000人」、本編で「2,370,000人」となっており、一致していない。

〈事務局〉 概要版を「2,370,000人」に修正する。

また、「市内事業所就業者数」の基準値を「49,300人(H26)」に、目標値を「50,000人」に修正する。

〈副座長〉 資料3-2の3ページ、基本目標の3に「若い世代が安心して働ける質の高い雇用」とあるが、質の高い雇用とは具体的にはどういう雇用を指すのか。

〈事務局〉 企業の誘致にも力を入れているがマッチングが難しい。都会から来た人の働く場がないという意見もあり、ニーズに合った雇用創出が必要である。また、非正規雇用も多く、若者が結婚・出産しようと思えるような所得を得られるという意味での質の高さも必要と考え、意識的に使った言葉である。

〈事務局〉 どちらかというと正規雇用の意味合いが強い。企業が非正規雇用を増やしていることもあり、若い人が大学を出ても、ずっと正規の職に就けないままということがある。そういったことを解消すべく、企業誘致も含め、安定した正規雇用につながる施策を打っていくという意味合いである。

〈事務局〉 雇用対策ができないと、結婚、出産といった次のステップに進めない。人口増につなげるには生活の基盤が重要だと考える。

〈座長〉 耳慣れない言葉であったが、内容についてはご了解いただけたのではないかと。

〈副座長〉 新規予算でもブランド創出関連の取組があがっており、「ブランド」という言葉が多用されている。本来は、格調の高い、絶対信頼という意味において使われる言葉である。地域の特産として絶対のものであるという実績が積み重ねられた場合に、ブランドとして定着していくのではないかと。使い過ぎの感もあるので、今後、検討してもらいたい。

〈座長〉 ご指摘の通り、今、「ブランド」という言葉は軽く扱われがちだが、本来は、相当信頼性の高いものに対してユーザーが与えるものであることを認識した上で使ってもらいたい。ここで使われている分野に関しては、それなりの思いが込められているが、根底には、やはり底力を持ったものとして認識していただきたい。

〈委員〉 「ワーク・ライフ・バランス」が取り上げられている。女性も男性も、育児や介護、また趣味などと両立できる働きやすい職場をつくっていくという意味合いで、資料3-2の27ページにも記述があるが、子育てや介護をする側にとって、「このような形になるとよい」という書き方であると感じる。企業としての考え方も入れるべきではないか。労働時間等に関する法令遵守を呼び掛け、先進事例の紹介や研修に取り組んでももらいたい。

〈座長〉 企業側の姿勢にふれる部分が必要との指摘ととらえてよいのか。

〈委員〉 「意識改革」「職場風土づくりや啓発を図る」という記述もあり、本来、法令遵守は当然のことであるが、なかなか取り組まれないので、市として力を入れていく姿勢も表してもらいたい。

〈事務局〉 総合計画の議論において、企業への働き掛けについては、事業所内保育への補助などご意見をいただき計画に反映した部分もある。直接企業へ働き掛けることは難しい部分もあるが、検討していきたい。

〈座長〉 離職後の復職に関して企業の理解促進を図ることは全般にわたって言えることではないか。そのような内容が必要ではないか。

〈委員〉 資料3-2の6ページの「企業誘致に向けた基盤強化」で「新たな工業用地等の造成について、検討を行う」とあるが、造成の申請があれば検討するということか、市に造成の計画があるということか。

〈事務局〉 現在、市には「都市計画法」上の3つのエリアがある。蒲生、八日市、五個荘、能登川は近江八幡八日市都市計画区域であり、市街化区域と市街化調整区域に区分され、厳しいルールに則った土地利用がなされているエリアである。湖東、愛東は旧愛知郡の都市計画区域で、市街化区域、市街化調整区域の区分はない。永源寺は都市計画区域外となっている。

都市計画の見直しは5年ごとで、現在は平成32年に向けた協議を県や国と行っている。その中で、新たな工業団地としてエリアごとのニーズを踏まえ選定を行いながら、市街化調整区域を市街化区域に編入するなどの詰めを行っている。

近江八幡八日市都市計画区域には市街化区域か市街化調整区域しかなく、調整区域の大半は農地となっている。農地は、ほぼ100%が土地改良済みの農業振興地域で、農業振興のための土地改良で補助を得ているので、単純に土地利用を図る、というだけでは市街化はできない。農林サイドの土地利用施策と相反することになり、調整が必要となる。

工業団地として開発済みの土地には工場を誘致できる大きな区画が残っていないので、何とか確保したいと考えている。湖東、愛東エリアも全て土地改良が行われ、永源寺も平地は

全て土地改良済となっており、「農地法」「農振法」の規制下にある。土地利用については、市全体として見極めたい。

造成を行う主体は、市と民間のどちらも考えられる。市が直接行う場合は、誘致できる企業がすぐ見つかるが費用対効果がよいが、見極めるのは、まだ難しい。民間が行うこともあり得る。

県の公社が竜王町のドラゴンハット近くの山で30ha近くの造成工事を行っている。販売単価は高いと聞いており、7区画の先行予約が埋まらない状況もある。そういうところも見極めて開発できるようにしていきたい。

<委員> 資料3-2の26ページ、「主な取組」の保育士の確保について、東近江市は県内でも早くから認定こども園化を進めており、来年度も関連予算を多く措置してもらっている。保護者は利用しやすいと思われるが、保育士不足は東近江市に限らず深刻となっている。

4月から、びわこ学院大学短期大学部に定員30名の児童学コースが開設される。ほぼ定員を満たす応募がある。4年制と同じように実習もこなさねばならず大変だが、大いに活用してほしい。また、市には卒業した学生を雇ってもらいたい。

認定こども園に就職するには、保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を持って保育教諭になる必要がある。びわこ学院大学では、今年度に続き来年度も、それぞれ定員40名の講座が開かれる。幼稚園教諭の講座には定員を超える50名に来ていただいているが、保育士資格の講座は14名と少なく、まだ余裕がある。

幼稚園に比べ、19、20時までと長い保育時間や、ゼロ歳児から預かることから保育園は大変と言われるが、子どもが好きな方には、どんどん資格取得を目指してもらいたい。認定こども園を開園する際にはスタッフが必要なので、保育士確保のための取組を引き続きお願いしたい。私自身は素晴らしい学生を育成し、輩出することで行政とともに頑張りたい。

<委員> 市としても保育士確保は非常に難しい。2、3の幼稚園が4月から認定こども園化する動きがあり、それにより、幼稚園の定員が空いていた部分で保育園の定員は多少プラスとなるが、ゼロ・1歳の待機児童解消には至らない。今後も、びわこ学院大学とも連携して取り組みたい。

<座長> 市の対応にも期待したい。教育分野に限らず人材の問題は難しいが、プロジェクト推進当たって要所に人員を配置するのは行政の大きな役割である。形あるものや仕組みに予算を使うのも大事だが、中身の効率アップや質の向上のため、人材の配置にも配慮願いたいと常々考えている。

<委員> 資料3-2の13ページ、「再生可能エネルギーの利用拡大」に関し、太陽光発電のK P Iについて、太陽光発電の電力受給契約数が今後5年間で6,800件、年間500件程度を増やすとの目標だが、現実的に、年間どの程度設置されているのか。また、予算はどの程度ついているのか。

<事務局> 近年、契約件数は伸びており、当初は4,500件を目標にしていたが、昨年度末で4,700件近くの数値になったことから、目標数値を引き上げた。買い取り料金等制度面とも関連していると考える。予算措置は実績に基づき計上している。

〈副座長〉 資料3-2の16ページ、「まちなかのにぎわい創出」で、中心市街地の活性化に関する施策は、これまででもいろいろあったが、同時に、憩いや健康増進に関する集客を望める公園も今後必要ではないか。延命公園、太郎坊、瓦屋寺を結ぶ地域は、昔は楽しい遊び場であった。いつも人が集まり、にぎわいが出れば中心市街地に連動する。

雄琴温泉に宿泊し、びわこ成蹊スポーツ大学と連携した山歩きをするのが人気だと聞いている。少し違った発想が、今の時代の動きに結びついたように感じる。延命公園周辺に茶屋や芸術的なものを配置して散策を楽しめるようにするとか、瓦屋寺や太郎坊から見る季節ごとの見事な田園風景を生かすといったかたちで、公園をまちづくりにもっと活用してはどうか。

今は、あまりにも寂しい状態である。公園整備について、そういう視点でも見てもらえるとうれしい。

〈座長〉 中心市街地は、核だけでなく周辺環境整備も重要である。

〈事務局〉 市としても、公園単体ではない広がりを考えいく必要性を認識している。市辺駅から八日市駅まで、太郎坊も通る箕作山ハイクを中野地区まちづくり協議会等の主催で行っていたが、起終点になる両駅前を生かしたい。

織山から石馬寺を通ってのルートを五個荘と能登川の方で検討しており、その辺りの状況も調査したい。

延命公園は桜の名所でもあったため、気軽に花を見に来たり、小さい子どもを遊ばせたりと、様々な活用が可能だと考えられる。また、アウトドア的な楽しみ方も可能で、東京オリンピックで話題になっているボルダリングの講習会を民間企業がされており、インターネット動画にも出ている。知っている人は知っているので、そういった状況をうまく活用して中心市街地活性化につなげる視点も大事にしたい。

(2) 定住自立圏共生ビジョンについて

〈事務局〉 資料4-1（共生ビジョン概要版）、資料4-2（共生ビジョン変更）説明

〈座長〉 定住自立圏を想定した中で、まちづくりをどう進めていくか、総合計画からいかにつなげていくかということ、より具体的に、強力に進めていく観点から挙げている事業であると思われるが、何かご意見はないか。

〈副座長〉 資料4-2の11ページ、「子育て支援の充実」の「具体的に取り組む事業」について、既に平成28年度から動いている「子育ての援助を受けたい人と子育ての援助ができる人が会員登録を行い、地域において相互に助け合い」とあるのは、今後、非常に大事な取組だと思われる。我々も人材バンクのような取組を地域内で検討しているが、どこが軸となって取り組んでいるのか。

〈事務局〉 市が中心となって取り組んでいる。

〈副座長〉 登録や利用などどのように行われるのか。

〈事務局〉 詳細な内容は持ち合わせていないが、資料2の予算概要の10ページに事業内容など掲載している。

〈委員〉 ファミリーサポート事業は以前から取り組まれており、地域ごとではなく全市的な取組である。登録情報を元に地域のつながりや利便性を考えて市がマッチングを行い、紹介された人同士で預かりや送迎等について相談し、お金もやり取りする制度である。

〈副座長〉 コミュニティビジネス的なものと捉えてよいのか。

〈委員〉 もう少し発展させれば近いものになるのではないか。

〈事務局〉 これまでご議論いただいた総合計画を最上位に、地方創生に関連して総合戦略は人口減少への対応、定住自立圏共生ビジョンはネットワークでの事業展開と切り口は違うが、内容としては似通っており、同じような取組が掲載されていることはご了承いただきたい。

〈座長〉 定住自立圏構想は市単独での取組であり、総合計画や総合戦略と枠としては同じものになる。計画をつくる段階で十分ご検討いただき、齟齬などについても厳密にチェックしていただいたので大きな間違いはないと考える。

本計画が個々の生活にどのように影響していくのかという視点で、住民一人一人が手に取って見てもらえるようになるとありがたい。委員の皆様方から周囲の方々に薦めていただくことも、ぜひともお願いしたい。

後でお気づきの点があれば事務局までお知らせいただきたい。

〈副座長〉 定住自立圏共生ビジョンでは、新しい話が出ていないのか。

〈事務局〉 合併して事業を一体的に行う必要性から、本市の定住自立圏の取組は、広がりが見えにくいものとなっている。新しい事業の追加はないが、広域の連携など、市をどうすべきかの視点で見ると有難い。総合戦略も受けて、その辺りも勝負になってくると思われる。

〈副座長〉 本市のいくつかの地域で、何年か先には限界集落になるという統計があるが、なくなってしまうのを見ているだけで終わってしまうのかという思いもある。挑戦していくような施策はあるのか。

〈事務局〉 策定中である立地適正化計画においては、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考え方がある。人口減少問題は大きな課題であり、集中型の考えだけではなく、獣害対策や治水、治山に手を付けず放置することはできない。

将来の産業、人口、集落に関して、どういった行政サービスを行っていくべきかについて、次年度以降、基本的な調査を行い個別計画を立てるなど、ご指摘の点について、対応していくべき状況になっていくと考える。

〈座長〉 かなり厳しい状況にあるが、まだ実感はないかもしれない。人口減は急激に加速化しかねない。人口が減ると、単に集落がなくなるだけでなく、インフラの維持管理ができなくなり、人が住む場所としての価値がなくなってしまう。

ご指摘の内容について、コンパクト化の取組もよいが、東近江市には、捨てきれない、魅力ある部分が非常に多い。基本目標にあるように、若い世代が希望をかなえる場所として、そういうところを再開発していくという可能性もあるのではないか。

ワーク・ライフ・バランスは会社勤めの人だけのものではない。各地域において、起業も含め、山や田での仕事をしながら、バランスの取れたライフスタイルを実現する場の提供ができるとうい。やはり、そこには自立できる経済的裏付けが必要で、中心市街地で考えるべきものとは、まったく違う視点が必要である。

若い世代の暮らしの安定やワーク・ライフ・バランスについて、地域で活躍する場をつくるという計画も立てていただいているので、ぜひとも、より具体的なかたちで進めてもらいたい。一人一人の市民の皆さんが考えて、取り組んでいただく必要があるので、その点についても、よろしくお願ひしたい。

〈事務局〉 限界集落の問題は身近に迫っており、自治会等で話し合うが結論は出ない。住人自らが、新しい人を受け入れないといった古い体質や意識を変えていく必要があるが、難しい面もある。

3 その他

〈事務局〉 今年度の委員会は今回で終了となるが、次年度は総合戦略や定住自立圏共生ビジョンの見直し、またKPIの検証などを、あらためてお願ひさせていただきたい。

総合戦略と定住自立圏共生ビジョンについては、いただいたご意見を踏まえて庁内で調整し、文面を整え、3月議会での予算の議決を受けて、3月末に改定版として確定する。

閉 会

〈座長〉 本日は遅参して、あらためお詫び申し上げます。

今年度は本日が懇談会最終回であり、次回は必要に応じてということで少し先になるかと思う。これまで皆様には貴重な時間を費やしていただき、総合計画、総合戦略、定住自立圏共生ビジョン等、さまざまな分野において貴重なご意見を頂戴したことを大変ありがたく思う。

出来上がったものを見ると、ここまでできたという感慨を覚える。ひとえに皆様のご意見の集大成であり、事務局の皆さんの労作である。ここに関わらせていただいたことを誇りに思うとともに、この東近江の地で計画が進められることを見守っていきたい。

委員の皆様方にも、市民の一人として計画の進捗を気に留めていただき、また、さまざまなご意見を頂戴しながら進めていければ、実のある中身になると思う。これからも、よろしくお願ひ申し上げます。

〈企画部長〉 5月に総合計画の審議会がスタートして以降、名前は変わりながら、この10カ月で8回もの会議にご出席いただき、大変貴重なご意見を賜ったことを御礼申し上げます。

本日、総合計画を上程し、議会での議論が始まる。また昨日は市長が2期目をスタートした。本日の新聞には、予算も含め、観光、中心市街地といった見出しの中、「まいた種 実らせる」という表題があった。まさに、皆様にご協力いただいてできた総合計画は大きな種をまいたことになり、市長は、その種を4年の任期で実らせると言っている。

皆様には、これからもお付き合いいただき、水をやればよいのか、肥をやればよいのか、やりすぎているのか、そういったことをアドバイスくださるようお願ひし、今日までのお礼とさせていただきます。

(終了)